



自然体験講座「昆虫採集と標本作り」での集合写真。  
昼食後には、採集した昆虫の標本作りに挑戦しました。

Vol.171

令和6年度9月号

## 第3回自然体験講座が開催されました。

7月28日に、自然体験講座「昆虫採集と標本作り」が開催されました。午前中の昆虫採集では、小雨が降る中、標本作りに使用する昆虫を採集しました。

池の上を飛ぶチョウトンボを捕まえようと採集網を持ってまちかまえていましたが、なかなか近寄って来てくれません。



午後は採集した昆虫の標本を作製しました。チョウやトンボの標本作りは講師の先生の説明に習って上手に作っていました。子供たちは、標本の乾燥が終わる2週間後の受け取りを楽しみにしていました。

標本の作製は、その場所に生息する生物を記録するための大事な活動です。今回の体験が、身の回りの生き物や自然に関心を持つきっかけになってくれればと思います。

## 7月の増水がハスに与えた影響

ハスは水生植物ですが、植物体全てが水没すると呼吸ができなくなり、ひどい場合は枯れてしまいます。2022年の洪水では、長期間の水没により、多くのハスが枯死してしまいました。その後、少しずつ復活し、その数を増やしていた伊豆沼・内沼のハスですが、今年7月の長雨と増水によって、再び被害を受けてしまいました。例年、7月の終わりにハスの花は見頃を迎えますが、今年は増水によって枯れた葉や蕾が目立ちました。しかし、増水の影響が長引かなかったことが幸いし、ハスはその後持ち直したようです。8月中旬、ハスは再び多くの花を咲かせています。



7月下旬



8月中旬





学識経験者を交え、伊豆沼・内沼自然再生事業の現状について検証する会議が8月に開催されました。

エコトーンの造成や水質汚濁について、担当者から説明があったあと、現地視察も行い、エコトーンでマコモ等が順調に生育している様子などを見学しました。

## 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze ～

ガガブタは湖沼や溜池に生える水草です。スイレンのような丸い葉を水面に浮かべ、夏にはその葉の付け根から白毛に覆われた可憐な花を咲かせます。海外ではこの花を雪の結晶に見立てて、「ウォータースノーフレイク」と呼ばれているようです。また、夏から秋には、葉の付け根にウニのような形の殖芽（越冬用の芽）をつけます。この殖芽を散布することで、数を増やすと考えられています。

ガガブタは、埋め立てや天敵であるアメリカザリガニの増加による自生地の消失が相次いでいるため、絶滅が心配されています。また、ガガブタの種子は干出した湖底で発芽すると考えられていますが、治水管理の方法の変化や湖沼の水位変動が少なくなったことにより、種子が発芽できなくなっていることも原因と考えられています。ガガブタは水生昆虫の生息の場としても重要と考えられるため、当財団では、このユニークな水草の自生地を、末永く残していきたいと思いをします。



花



殖芽

## 自然体験講座 参加者募集

10月1日より伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会」の参加申込を始めます。詳細は、館内のチラシか、HPをご覧ください。早朝の伊豆沼でマガンの飛立ちを観察した後、南三陸町までバスで移動し、コクガンを観察する毎年好評の講座です。

|     |      |           |
|-----|------|-----------|
| 開催日 | 第7回  | 11月 9日(土) |
|     | 第8回  | 11月24日(日) |
|     | 第9回  | 12月15日(日) |
|     | 第10回 | 1月11日(土)  |



早朝の伊豆沼でガンの飛立ち観察



アツアツの朝食で一息



南三陸でコクガンの観察

